

価格改定の理由

<アンモニア>

国産ナフサは02年1Qに19,300円/k1であったものが08年1Qには66,700円/k1になり、今年1月にアンモニア・硝酸ともに第6次値上げを実施致しました。

しかし、その後もナフサの高騰は止まらず08年2Qには69,000円/k1を超え、更には08年3Q以降は83,000円/k1以上に達する見込みとなっており、アンモニア系製品の事業収益は悪化し続けている状況です。

よって、今回は前回までの値上げ未達分と08年1Q以降のナフサの更なる高騰によるコストアップ分、更に固定費及び物流費増加分も合わせた値上げを実施することに致しました。

尚、国内アンモニアバランスは、昨年以上にタイト感が強くなるものと見られており、国内在庫の水準としては月末の平均で75,000トンに落ち込むものと予想されます(2007年度の月末国内在庫平均は98,000トン)。

<硝酸>

また硝酸バランスは、各メーカーともプラント老朽化により生産能力が低下してきていることと、一昨年に弊社が設備の一部廃棄を実施したこと、また主要用途のウレタン、アジピン酸の国内需要は好調に推移する見通しであり、タイト傾向となっています。

以上のような硝酸の需給状況に対して、硝酸の原料であるアンモニアが高騰しており、且つ、その他の原燃料費も原油、石炭、触媒素材の貴金属等全て史上最高値を付けるまでに暴騰しています。その動きはメーカーの企業努力の範囲を超越しており、このままでは硝酸の事業収益は大幅に悪化する見通しです。そこで、安定的な供給を維持する為に、原料であるアンモニアのコストアップ分、燃料体系が激変した物流費、原料アンモニア以外の製造費用(ユーティリティ費用)、及び年々増加する老朽化対策費用を含めて価格改訂を実施する事に致しました。

尚、打出しのナフサ前提8万3千円を更に超えて上昇するときは、6月20日現在発表の改訂価格を更に再改訂する可能性もあります。